

基準 1 高等専門学校の目的

(1) 観点ごとの分析

観点 1-1-①: 高等専門学校の目的が、それぞれの学校の個性や特色に応じて明確に定められ、その内容が、学校教育法第115条に規定された、高等専門学校一般に求められる目的に適合するものであるか。また、学科及び専攻科ごとの目的も明確に定められているか。

(観点に係る状況)

本校の目的は、「本校は、教育基本法の本質にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする」と学則に定められている(資料1-1-①-1)。この目的を達成するために、本校では創立時に野手初代校長の定めた「学生自らすすんで実践することによって、学問的、技術的力量を身につけ、徳性を養い、将来、創造力のある風格の高い人間・技術者として国際社会を主体的に生きることを目指させる」という教育方針を、一貫した基本指針とし、その実現のために全ての教育研究活動のプログラムが構成されている(資料1-1-①-2)。準学士課程ではこの教育方針を実現するため各学科の特色を明確にした学科ごとの教育目的が定められている(資料1-1-①-3)。

平成12年度に設置された本校の専攻科では、「専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、更に精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導することを目的とする」と学則で定めている(資料1-1-①-4)。また教育目的を「高等専門学校などの高等教育機関において、工学の基礎と実践的技術を修得した者に対して、さらに2年間の高度で専門的な技術・学問を教授することによって、実践的かつ創造的な研究開発能力を持つ高度な技術者を育成すること」と明確に定めている(資料1-1-①-5)。その上で、機械・電気工学専攻、物質工学専攻、建設工学専攻の3つの専攻ごとに具体的な教育目的が定められている(資料1-1-①-6)。全専攻及び各専攻の教育目的を達成するために専攻科の教育方針及び各専攻の教育方針が定められている(資料1-1-①-7)。専攻科設置後4年となる平成16年度までには設置されているすべての専門学科及び専攻科の教育プログラムが日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定を受け、工学全般にわたり、学問的、技術的に高い国際レベルの専門教育を行うことのできる物的・人的資源が完備していることが証明された。その際に、教育方針、教育目的を達成するための具体的な学習・教育目標が設定された。その中には、「基本的人格と社会的責任(技術者倫理)」、「基礎的技術の修得と専門的技術の活用(技術者知識)」、及び「豊かな創造力と行動力(技術者能力)」の達成すべき3つの能力の内容が具体的にわかりやすく示されている(資料1-1-①-8~10)。

学校教育法第115条では「高等専門学校は、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。」と定められている。教授すべき深い専門の学芸と職業に必要な能力については、準学士課程の各学科の目的及び専攻科課程の各専攻の目的の中に具体的に示されている。

資料 1-1-①-1

「高知高専の目的」

第 1 章 本校の目的

第 1 条 本校は、教育基本法¹の精神にのっとり、及び学校教育法²に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

(出典：高知高専学則)

資料 1-1-①-2

「教育方針」

教 育 方 針

学生自らすすんで実践することによって、学問的、技術的力量を身につけ、徳性を養い、将来、創造力のある風格の高い人間・技術者として国際社会を主体的に生きることを目指させる。

校 章 の 由 来



校章の由来について野手初代校長は「校章に土佐寒蘭を選ぶの辞」なる一文を物されているが、その中には、「土佐寒蘭は一本の茎に数個の気品ある花が秩序よくついでおり、香りが高い上に全体として極めて麗しい姿をしていて、我々の目指す『風格の高い人間・技術者』と、技術者として必要な和の精神をよく象徴している。」という主旨のことを述べられている。

こうして土佐寒蘭の花は高知高専のシンボルとなり、校歌にうたい込まれ、校旗にその秀麗な姿が箔^{はく}されたのである。

(出典：高知高専「学生便覧」)

資料 1 - 1 - ① - 3

「教育目的（準学士課程）」

第 8 条 学科，学級数，入学定員及び教育の目的は，次のとおりとする。

学 科	学級数	入学定員	教育の目的
機 械 工 学 科	1	40人	機械の構成，材料，加工，力学及び制御に関する機械工学の知識と技術を教授し，機械システムの計画，設計，生産で必要とされる実践的な能力を育成する。
電 気 情 報 工 学 科	1	40人	電気，電子，情報及び通信に関する電気工学の知識と技術を教授し，エネルギー，エレクトロニクス，インフォメーション・コミュニケーションテクノロジーで必要とされる実践的な能力を育成する。
物 質 工 学 科	1	40人	化学，生物，化学工学，環境及び情報に関する物質工学の知識と技術を教授し，工業薬品，材料化学，バイオテクノロジー，プロセス工学，及び環境化学の分野に於ける開発・生産・製造・管理で必要とされる実践的な能力を育成する。
環 境 都 市 デ ザ イ ン 工 学 科	1	40人	公共施設，建築物や構造物などの土木・建築に関する建設工学の知識と技術を教授し，環境や防災に配慮した計画・設計・施工・管理で必要とされる実践的な能力を育成する。

(出典：高知高専学則)

資料 1 - 1 - ① - 4

「専攻科の目的」

第 1 1 章 専攻科

第 46 条 本校に、専攻科を置く。

第 47 条 専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、更に精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導することを目的とする。

(出典：高知高専学則)

資料 1 - 1 - ① - 5

「教育目的（専攻科）」

専攻科の教育目的

本校専攻科は、高等専門学校などの高等教育機関において、工学の基礎と実践的技術を修得した者に対して、さらに2年間の高度で専門的な技術・学問を教授することによって、実践的かつ創造的な研究開発能力を持つ高度な技術者を育成することを目的とします。

(出典：高知高専「専攻科学生の手引」)

資料 1 - 1 - ① - 6

「専攻毎の教育目的（専攻科）」

専攻	入学定員	教育の目的
機械・電気工学専攻	8人	高専本科の機械工学科及び電気情報工学科のカリキュラムの上において、エネルギーや環境及び情報・制御技術に関わる基礎及び専門科目を教授し、ロボットや新エネルギー開発、環境機器や情報機器の開発など、日本の産業の基幹となる機械・電気融合分野で必要とされる実践的かつ創造的な研究・開発能力を育成する。
物質工学専攻	4人	高専本科の物質工学科のカリキュラムの上において、化学やバイオ技術ならびに環境技術に関する基礎及び専門科目を教授し、新素材や機能性材料の創製、微生物を利用した有用物質の生産、環境対策等で必要とされる実践的かつ創造的な研究・開発能力を育成する。
建設工学専攻	4人	高専本科の環境都市デザイン工学科のカリキュラムの上において、社会・環境・構造物を総合的にデザインする学問を教授し、地震・台風などの自然災害から人々の暮らしを守る社会基盤整備に置いて必要とされる実践的かつ創造的な研究・開発能力を育成する。

(出典：高知高専学則)

資料 1 - 1 - ① - 7

「専攻科の教育方針」

専攻科の教育目的

本校専攻科は、高等専門学校などの高等教育機関において、工学の基礎と実践的技術を修得した者に対して、さらに2年間の高度で専門的な技術・学問を教授することによって、実践的かつ創造的な研究開発能力を持つ高度な技術者を育成することを目的とします。

専攻科の教育方針

- (1) 実践的技術を駆使する研究開発能力、創造能力をもつ技術者の育成
- (2) 広い視野をもち、国際性に優れ、協調性と指導力のある風格の高い人間・技術者の養成

機械・電気工学専攻の教育方針

機械、電気技術分野は高度化、専門化するとともに、両分野の技術の融合化も進んでいます。ロボティクスやメカトロニクスに代表されるこれら技術の融合化の例として、人間の頭脳と知覚、認識を持った知能ロボットの研究や、危険環境における作業ロボットの開発、生産ラインの自動化技術の開発などがあげられます。

本専攻では、高専本科の機械工学科および電気工学科のカリキュラムの上に立って、両分野に共通する関連科目を中心に機械工学、電気工学のより高度な専門的知識と技術分野を教授します。これにより“機械の知能的な制御”をキーワードとした両分野の学際的素養を有する、創造性豊かで実践力のある技術者を育成します。

物質工学専攻の教育方針

現在の高度技術社会は、優れた特性を持つ物質や材料などの高付加価値製品の創製によって可能となりました。これらの新物質や材料は主に化学的技術によって製造され、最近では微生物を利用したバイオ技術による有用物質の生産も実用化されています。また、環境対策やクリーンエネルギーの創出、資源リサイクルにも化学やバイオ技術の果たす役割が高くなっています。

本専攻では、物質工学科を卒業した学生に対してさらに2年間、化学やバイオ技術ならびに環境技術に関する基礎および専門科目を教授し、産業社会の期待に応えうる高度な知識と技術を備えた創造的技術者を育成します。

建設工学専攻の教育方針

近年、建設工学の分野においては、自然環境と融合した地球規模の幅広い思考ができ、技術のより一層の複合化・多様化・高度化・国際化などに対応できる技術者の育成が望まれています。

本専攻では、高専本科の建設システム工学科の授業科目を基礎にして、広範囲にわたる力学系科目を中心とし、環境・防災・情報を考慮した専門基礎及び応用科目を教授し、計画・設計・施工・管理を系統的かつ効率的に判断できる能力を持った創造力溢れる総合建設技術者や開発研究型の人材を育成します。

諸規則、諸規程

- (1) 高知工業高等専門学校学則、諸規則、諸規程に基づきます。
- (2) この手引きに記載されていない事項は、原則として、本科の規程を準用するものとします。

(出典：高知高専「専攻科学生の手引」)

資料 1 - 1 - ① - 8

「学習教育目標（機械・電気工学教育プログラム）」

7年一貫教育による早期・実践的技術者教育の特色のもとに、以下の学習・教育目標を掲げている。

1 基本的人格と社会的責任（技術者倫理）

(A) 社会との関わりに配慮した、徳性豊かで風格高い人間・技術者

- ①地球環境と人間社会の相互関係を認識し、技術的活動が環境に与える影響について理解できること
- ②人間社会の要素である経済・文化・宗教について認識し、地球規模での人間・文化・技術的活動の依存関係を理解できること
- ③技術的活動における数多くの問題事例を討論し、疑似体験等を通して技術者の社会的責任を理解できること

2 基礎的技術の修得と専門的技術の活用（技術者知識）

(B) 早期一貫教育による数学・自然科学や機械工学または電気工学に関する専門的な知識・技術

- ①数学の基礎知識をもとに、応用数学、代数・幾何や解析学に関する知識を理解しそれらを応用できること
- ②物理、化学等の基礎知識をもとに、物理学に関する知識を理解し応用できること、また、化学、生命科学等の自然科学に関する知識の理解を広げること
- ③機械工学か電気工学のいずれかの各分野における専門的基礎知識・技術を理解・修得すること
- ④機械工学と電気工学の融合領域を学ぶための専門基礎となる機械工学概論、電気工学概論・電子工学概論、制御工学、情報処理や実験科目に関する知識・技術を理解・修得すること

(C) 実験・実習を重視して培われた実践的技術

- ①具体的な現象に対して、装置などを用いて適切なデータ収集・処理ができること。さらに、得られた結果を、専門的知識や方法により分析し、考察できること
- ②技術的問題解決の方法や結果・考察について、適切な方法や手段を選び、第三者に対して要領よく正確に説明できること

(D) 環境、福祉等の地域のニーズに対応できるエネルギー、制御・情報、設計を含む機械・電気を融合した知識・技術

- ①環境問題の改善に役立つ知識・技術を学習し、環境分野に関連した技術的な要請や課題に適用できること
- ②福祉の増進に役立つ制御・情報に関連した知識・技術を学習し、福祉分野における技術的な要請や課題に適用できること
- ③機械と電気の融合、複合領域における技術的な要請や課題に対し、幅広い視点に立った設計に関わる知識・技術を適用できること

(E) 世界に飛躍するために必要な基礎的語学力やコミュニケーション能力

- ①日本語でわかりやすく実用的な文章が書けること。また、相手の話を正しく理解し、それに適切に応答できること。さらに自分の考えを相手に正しく伝えられること
- ②英語の基本構造(文法)を確実に身に付け、一般のおよび専門的な英文も辞書さえあれば「読み」、「書き」できること
- ③英語による技術的な内容に関するコミュニケーションに積極的になれること
- ④外国語の勉強を通して、日本語との発想や論理の違いを理解し、異文化に触れ、国際的に通用する視点を持つこと

3 豊かな創造力と行動力（技術者能力）

(F) 豊かな創造力・指導力を持ち、技術的諸問題を主体的に解決する能力

- ①機械工学及び電気工学に関する専門的知識や実践的技術を基礎として、学術的な研究課題に対する自主的な調査・計画・研究等を通して、継続的に技術的問題に取り組めること
- ②機械工学または電気工学に関する基本的な専門知識の上に、より高度で専門的な機械工学及び電気工学に関する総合知識を理解し、技術的諸問題に自ら取り組み解決できるように、実際のデータ処理や解析・考察を通じて実践できること
- ③機械工学及び電気工学に関する専門的問題に対して柔軟に対応でき、系統的にまとめられること
- ④要求される課題に対して必要な技術や科学を使いこなすことのできる豊かな創造力と企画力を持つこと

（出典：高知高専ウェブサイト）

資料 1 - 1 - ① - 9

「学習教育目標（物質工学教育プログラム）」

7年一貫教育による早期・実践的技術者教育の特色のもとに、以下の学習・教育目標を掲げている。

1. 基本的人格と社会的責任(技術者倫理)

(A) 人間生活と自然環境との調和の重要性を理解し、社会に対して責任を持つことのできる風格高い人間・技術者。

- ① 地球環境との関わりの中で科学技術のあり方を学ぶこと
- ② 法律、経済、価値観、文化等幅広い教養基礎知識を理解し、相互理解を深めること
- ③ 技術者の社会的責任を数多くの問題事例、疑似体験等を通して学ぶことにより風格高い人間・技術者を目指すこと

2. 基礎的技術の修得と活用(技術者知識)

(B) 早期一貫教育による数学、自然科学、情報技術や化学及び生物に関する専門基礎知識。

- ① 7年一貫教育として低学年から継続的な数学および物理の基礎を理解し、さらに応用力をつけること
- ② 情報技術の基礎知識を理解し、さらに応用力をつけること
- ③ 単位、化学量論、移動現象などの化学工学の基礎を理解し、さらに応用力をつけること
- ④ 化学及び生物に関する基礎的な専門知識を理解すること

(C) 実験・実習を重視した実践的技術。

- ① 7年一貫教育として低学年から継続的に実践的技術を習得すること
- ② 高度な専門分野の実践的技術を習得すること

(D) 地域の特性を生かした、新素材・バイオ・環境保全・情報などに関する専門応用知識。

- ① 新素材に関する知識や技術を習得すること
- ② 生物工学に関する知識や技術を習得すること
- ③ 環境工学に関する知識や技術を習得すること

(E) 日本語による記述力やプレゼンテーション能力、さらに世界に飛躍するために必要な英語によるコミュニケーション能力。

- ① 日本語の記述方法・表現能力の基礎とそのプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を向上させること
- ② 基礎的な英語表現能力から、専門英語文献講読のための英語基礎構造を理解すること
- ③ 「聞く」、「読む」の技能に重点をおいてTOEICテストに対応できる実践的な英語能力を身につけること
- ④ 「話す」、「聞く」に焦点をあてた英語によるコミュニケーション能力の向上を目指すこと
- ⑤ いろいろな言語とその文化・社会について広い視野から触れること

3. 豊かな創造力と行動力(技術者能力)

(F) 豊かな創造力を持ち技術的諸問題を主体的に解決する能力と、技術者として地域社会へ積極的に貢献する行動力。

- ① 基本的な専門知識と実践的技術を自主的、継続的に学習できる能力を身につけること
- ② 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、その成果をまとめる能力を身につけること
- ③ 経済性・安全性・信頼性・社会および環境への影響を考慮しながら基本的な専門知識と実践的技術を社会が要求する学術研究課題や技術的諸問題の解決に利用できる応用能力、デザイン能力、マネジメント能力を身につけること

(出典：高知高専ウェブサイト)

資料 1 - 1 - ① - 10

「学習教育目標（建設工学教育プログラム）」

7年一貫教育による早期・実践的技術者教育の特色のもとに、以下の学習・教育目標を掲げている。

1. 基本的人格と社会的責任(技術者倫理)

(A)社会との関わりに配慮した、徳性豊かで風格高い人間・技術者

- 地球環境との関わりの中で科学技術のあり方を学び、法律、経済、価値観、文化など幅広い教養基礎知識を理解し、相互理解を深めること
- 技術者の社会的責任を、数多くの問題事例、疑似体験等を通して理解すること

2. 基礎的技術の修得と活用(技術者知識)

(B)早期一貫教育による数学・自然科学や専門基礎に関する知識

- 7年一貫教育として低学年から継続的な数学知識と応用を理解すること
- 自然科学の基礎から物理学的素養を中心とした継続的な自然科学知識を理解すること
- 建設工学の専門的基礎知識を理解すること
- 幅広い分野での物理現象の応用理解を深めること

(C)実験・実習を重視した実践的技術

- 7年一貫教育として低学年から継続的に実践的技術を習得すること
- 高度な専門分野の実践的技術を習得すること

(D)地域特性を生かした環境・防災・情報などを含む総合的知識

- 低学年から継続的に最新情報技術の基礎知識を習得すること
- 高知県地域に必須の環境・防災・情報等の知識を総合的に学ぶこと
- 専門的知識や防災に関する知識を系統的に理解すること
- 幅広い工学基礎知識を理解すること

(E)世界に飛躍するために必要な基礎的語学力やコミュニケーション能力

- 実用的な日本語の体系的な記述方法や日本語によるコミュニケーション能力の基礎を身につけ、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を向上させること
- 英語表現を基礎にして、専門英語文献の購読を念頭においた英語基礎構造を理解すること
- 「聞く」、「読む」の技能に重点をおいて TOEIC テストに対応できる実践的な英語能力を身につけること
- 「話す」、「聞く」に焦点をあてた英語によるコミュニケーション能力の向上を目指すこと
- 中国語及びドイツ語の学習により、英語とは異なる言語の基礎とその基底にある文化・社会について広い視野から触れること
- 学術的な研究課題を総合的にまとめ、論理的な記述力を高めること

3. 豊かな創造力と行動力(技術者能力)

(F)豊かな創造力・指導力を持ち、技術的諸問題を主体的に解決する能力

- 専門的知識や実践的技術を基礎として、学術的な研究課題に対する主体的な調査・計画・研究等を通して、積極的に技術的問題に取り組む能力を養うこと
- 基本的な専門知識の上に、より高度で専門的な総合知識を理解し、技術的諸問題に自らが主体的に取り組む解決できるように、実際のデータ処理や解析・考察を通じて実践すること
- 専門的問題に対して柔軟に対応できる能力や系統的にまとめる力を身につけること
- 要求される課題に対して必要な技術や科学を使いこなすことのできる豊かな創造力と企画力を養うこと

(出典：高知高専ウェブサイト)

(分析結果とその根拠理由)

本校の教育方針「学生自らすすんで実践することによって、学問的、技術的力量を身につけ、徳性を養い、将来、創造力のある風格の高い人間・技術者として国際社会を主体的に生きることを目指させる」という本校の教育方針に基づき、準学士課程の各専門学科及び専攻科全体と各専攻それぞれに個性や特色のある教育目的を明確に定めている。これらの教育目的は学校教育法第 115 条「高等専門学校は、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成」という高等専門学校一般に求められる目的に適合している。

観点 1-2-①： 目的が、学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

(観点に係る状況)

本校の教育方針、教育目的については「学生便覧」に掲載されている。また専攻科の目的、教育方針は「学生便覧」及び「専攻科学生の手引」に掲載されている。さらに、教育目的及び学習教育目標は本校ウェブサイトにも掲載している。

「学生便覧」と「専攻科学生の手引」は毎年度当初に開かれる教員会において全教員にも配布し目的の周知が図られている。新任教員には採用時の新任教員ガイダンスにおいて本校の教育目的の説明が行われている(資料 1-2-①-1)。また、毎年度当初に開かれる第 1 回の教員会においては校長からの挨拶により本校の教育方針の確認が行われている(資料 1-2-①-2)。

準学士課程の全学生に対しては「学生便覧」が配布され、担任を通じて教育目的の説明が行われている。また、準学士課程の全学生が出席する年度当初の始業式において、校長及び教務主事が本校の教育方針について説明を行っている(資料 1-2-①-3)。「学生便覧」は冊子として配布されているだけでなく、全学生及び全教員に貸与されている携帯情報端末からも簡単に閲覧できるようになっており、学生が本校の教育目的を確認するための利便性が図られている(資料 1-2-①-4)。専攻科学生には「専攻科学生の手引」を配布し、目的の周知を図っている。専攻科学生に対しても、毎年度当初に行われる全専攻科生オリエンテーションにおいて、校長及び専攻科長が教育方針、専攻科の教育目的の説明を行っている(資料 1-2-①-5)。

資料 1 - 2 - ① - 1

「平成 24 年度 新任教職員ガイダンス」

平成 24 年度 新任教職員ガイダンス

1. 日 時 平成 24 年 4 月 2 日 (月) 13:00～15:40
2. 場 所 管理棟 2 階中会議室等
3. 対 象 新任教職員
4. 内 容
 - (1) 本校の沿革及び校内組織 4/2(月) 13:00～13:10 【教務主事】
 - (2) 学則及び教務内容 // 13:10～13:40 【教務主事】
 - (3) 厚生補導関係規則及び留意事項 // 13:40～14:10 【学生主事】
 - (4) 情報セキュリティについて // 14:20～14:50
【情報処理副センター長】
※場所：情報処理センター
 - (5) 学生寮の運営と宿日直業務 // 15:00～15:40 【寮務主事】

※場所：切正寮

(出典 総務課資料)

「平成 24 年度第 1 回教員会」

平成24年度 第1回 教員会

1. 日 時 平成 24 年 4 月 4 日 (水) 13:30～
2. 場 所 専攻科棟 4 階会議室
3. 校長挨拶
4. 平成 23 年度高知工業高等専門学校教員表彰式 (資料 1)
5. 議 題
 - (1) 平成 24 年度校務分掌 (資料 2)
 - (2) 平成 24 年度行事予定 (資料 3)
 - (3) 学生の不祥事について－その後－ (口頭)
 - (4) 総務課からのお願い
 - ・ 公的研究費等に関する不正使用の再発防止策の徹底について (資料 4 - 1)
 - ・ 24 年度の一斉休業日程及び注意事項について (資料 4 - 2)
 - ・ 変形労働について。 (資料 4 - 3)
 - (5) 主事室からのお願いと連絡
 - ・ お願いと連絡
 - ① 教務関係
 - ② 学生関係
 - ③ 寮務関係
 - (6) その他
 - ・ 次世代 ICT 活用教育プロジェクトについて
 - ・ ソフトウェアの管理について
 - ・ 学生相談室より

(出典 総務課資料)

資料 1 - 2 - ① - 3

「平成 24 年度始業式実施要項」

平成24年度 始業式実施要項


平成24年4月1日

教職員各位

下記要領により始業式を行いますので、教員・関係職員はご出席願います。

校長

始業式 平成24年4月6日（金） 第2体育館 10:40～12:00

時間	事項	内容	担当職員
10:40	全学生集合	全学生を第2体育館に集合させ、出席調査を行う。	学級担任
10:45	諸注意	進行中の姿勢、私語等についての注意を行う。	教務主事補佐
10:50	始業式	開式 校長訓辞 入学生代表あいさつ 学生代表あいさつ 教務主事オリエンテーション 学生主事オリエンテーション 寮務主事オリエンテーション 新任教員の紹介 編入学生・留学生の紹介 閉式 諸連絡	司会 教務主事補佐 校長 3組(C科)  Z科 教務主事 学生主事 寮務主事 校長 教務主事補佐 教務主事補佐
12:00	学生退場	全学生退場 ただし、4年生はクラス写真・個人写真の撮影を行うので、退場後すぐに専攻科棟4階に移動する。	第4学年学級担任

(出典 学生課資料)

資料 1 - 2 - ① - 4

「携帯情報端末上の学生便覧」



(出典 情報処理センター運営委員会)

「平成 24 年度全専攻科オリエンテーション」

平成 24 年度 全専攻科オリエンテーション

日時：平成 24 年 4 月 6 日（金）14 時

場所：図書館棟 1 階視聴覚室

1. 専攻科長あいさつ（永橋優純 専攻科長）
2. 専攻主任の紹介（M・E 竹島敬志，M・E 副 今井一雅，C 中林浩俊，Z 岡林宏二郎）
3. 情報処理センターから（今井 情報処理センター副センター長）
4. 配布資料確認：
 - 専攻科学生の手引、時間割、調査票
5. 専攻科学生の手引を用いたオリエンテーション
 - (1) 履修要領
 - 単位・開設科目・修了要件
 - 特別研究
 - 履修手続き・試験・成績評価・再試験：授業科目履修届（4 月 13 日（金）締切）
 - 学位（学士）の取得（説明会：7 月上旬実施予定）
 - 放送大学：2 学期に分けて（第 1 学期：4 月-9 月，第 2 学期：10 月-3 月）
 - 大学等における学修許可願（高知大との単位互換制度：第 2 学期分申請可能。希望者は教務係に問い合わせること）
 - (2) 学生生活
 - 入学当初の手続き
 - 授業料免除・奨学金貸与・保険制度：日本学生支援機構
 - 学生控室の使用と建物の施錠について（専攻科棟 3 階と 1 階）
 - 通学方法について：提出先（学生係）
 - バイク等通学届（4 月 13 日（金）締切）：
 - 四輪車等通学許可願（4 月 13 日（金）締切）
 - 喫煙等について（校内全面禁煙，喫煙場所：管理棟 1 階のみ）
 - (3) 進路ガイド
 - (4) シラバス
 - 各専攻の学習・教育目標の確認
 - 専攻科修了要件：必修単位（ME 専攻 34，C 専攻 28，Z 専攻 32）を修得した上で
必修選択 12 単位以上を含む合計 62 単位以上を修得すること
 - JABEE 対応教育プログラム修了要件：各専攻によって異なる
 - (5) 学則・履修規程
 - 必修（必修得科目）：特別研究，特別実験，英語演習 I・II，
技術者倫理+（ME 専攻：エネルギー変換工学，ロボット工学，生産工学特論）
 - TOEIC 全員年 2 回受験（本科中間試験期間中），受験料（1 回）約 4,000 円
 - TOEIC 勉強会：生物棟 1 階（予定）講師 西村先生

 - 専攻科学生と教員との懇談会（本科後学期中間試験期間中を予定）

（出典 学生課資料）

(分析結果とその根拠理由)

本校の教育方針，教育目的を掲載した「学生便覧」，「専攻科学生の手引」を学生に配布すると同時に，携帯情報端末からも容易に閲覧できるようにすることにより周知を図っている。また全校集会での講話を通じても周知が行われている。教職員に対しても学生同様に配布物によって周知を図っているほか，会議等において説明が行われている。

以上のことから，本校では教育方針，教育目的が学校の構成員におおむね周知されている。

観点 1-2-②： 目的が，社会に広く公表されているか。

(観点に係る状況)

本校の教育方針と準学士課程及び専攻科の教育目的は本校ウェブサイトにて広く社会に公表している(資料 1-2-②-1)。

印刷物としては，毎年度発行している「高知高専学校要覧」に教育方針を掲載し(資料 1-2-②-2)，関係機関へ配布している(資料 1-2-②-3)。また，本校で開催される参与会・後援会・保護者会・公開講座・体験入学の参加者へも配布されている。中学生向け学校紹介パンフレット「高知高専 School Guide2013」には本校の教育方針・目的と各学科の教育目的が示されており(資料 1-2-②-4)，県内外の中学校及び主な学習塾に配布している(資料 1-2-②-5)。また本校教員による中学校を訪問しての学校紹介の際に参加した中学生，保護者に配布している。また専攻科についても，毎年度案内用のパンフレットを印刷し(資料 1-2-②-6)，各方面に配布している。さらに，本校の教育目的は入学者募集要項(資料 1-2-②-7)，専攻科募集要項(資料 1-2-②-8)にも記載し，受験生に公表している。

「高知高専の教育目的」

高知工業高等専門学校 Kochi National College of Technology 独立行政法人 国立高等専門学校機構

HOME | English | サイトマップ | お問い合わせ

学校案内 | 行事予定 | 情報公開 | 事務組織 | 教職員募集 | キャンパスマップ | アクセスマップ | リンク

校長あいさつ President's Message

訪問者別メニュー Visitor's Menu

受験生の方へ
保護者の方へ
卒業生の方へ
企業の方へ
地域の方へ

学科別 Departments

総合科学科
機械工学科
電気情報工学科
物質工学科
環境都市デザイン工学科
専攻科

カリキュラム Curriculum & Syllabus

教育・研究施設 Educational Facilities

図書館
情報処理センター
教育改善推進室
学生相談室
環境マネジメント室
地域連携センター
中核人材育成事業

高知高専トップページ > 情報公開 > 教育情報の公表 > 教育情報の公表 (教育目的・教育方針)

教育情報の公表

「学校教育法施行規則」第172条の2に規定する教育情報の公表

※ 各リンク先からの戻りはブラウザの「戻る」(又は「前のページ」)ボタンを押してください。

【1】高等専門学校の教育研究上の目的に関すること。

教育目的・教育方針 (学則第1条)

高知工業高等専門学校の目的は、学則の第1条に記載されているように「本校は、教育基本法の精神にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。」です。

この目的に応じて、本校においては、創設以来「学生が自らすすんで実践することによって、学問的・技術的力量を身につけ、徳性を養い、将来創造力のある風格の高い人間・技術者として国際社会を主体的に生きることを目指させる」ことを教育方針として、学内の全ての施策は、この理念を表現させ、具体的に実践することを目指としています。

専学士課程の教育の目的 (学則第8条)

機械工学科

機械の構成、材料、加工、力学及び制御に関する機械工学の知識と技術を教授し、機械システムの計画、設計、生産で必要とされる実践的な能力を育成する。

電気情報工学科

電気、電子、情報及び通信に関する電気工学の知識と技術を教授し、エネルギー、エレクトロニクス、インフォメーション・コミュニケーションテクノロジーで必要とされる実践的な能力を育成する。

物質工学科

化学、生物、化学工学、環境及び情報に関する物質工学の知識と技術を教授し、工業薬品、材料化学、バイオテクノロジー、プロセス工学、及び環境化学の分野に於ける開発・生産・製造・管理で必要とされる実践的な能力を育成する。

環境都市デザイン工学科

公共施設、建築物や構造物などの土木・建築に関する建設工学の知識と技術を教授し、環境や防災に配慮した計画・設計・施工・管理で必要とされる実践的な能力を育成する。

専攻科の教育の目的 (学則第48条)

機械・電気工学専攻

高専本科の機械工学科及び電気情報工学科のカリキュラムの上において、エネルギーや環境及び情報・制御技術に関わる基礎及び専門科目を教授し、ロボットや新エネルギー開発、環境機器や情報機器の開発など、日本の産業の基幹となる機械・電気融合分野で必要とされる実践的かつ創造的な研究・開発能力を育成する。

物質工学専攻

高専本科の物質工学科のカリキュラムの上において、化学やバイオ技術ならびに環境技術に関する基礎及び専門科目を教授し、新素材や機能性材料の創製、微生物を利用した有用物質の生産、環境対策等で必要とされる実践的かつ創造的な研究・開発能力を育成する。

建設工学専攻

高専本科の環境都市デザイン工学科のカリキュラムの上において、社会・環境・構造物を総合的にデザインする学問を教授し、地震・台風などの自然災害から人々の暮らしを守る社会基盤整備において必要とされる実践的かつ創造的な研究・開発能力を育成する。

Copyright © 2006-2011 Kochi National College of Technology. All Rights Reserved.

高知工業高等専門学校 〒783-8608 高知県高知市物部乙200-1 TEL:089-864-5500(代) Mail: information@kcechi-ct.ac.jp

(出典 高知高専ウェブサイト)

「教育方針（学校要覧）」

教育方針

学生自らすすんで実践することによって、学問的・技術的力量を身につけ、徳性を養い、将来、創造力のある風格の高い人間・技術者として国際社会を主体的に生きることを目指させる。

高等専門学校制度の特色

6-3-5-2制を持つユニークな高等教育機関

一貫教育 本校は中学校卒業後の早い年齢段階から5年(専攻科進学の場合7年)の一貫した専門教育を行っています。

本 科 本科は、6-3-3-4制で7年間で要している「高校段階～大学工学部レベル」の教育を、重複なく5年間で完成する一貫教育となっており、学年制を基本に、一般科目と専門科目をくさび形に配置し、1年次より段階的に専門科目が増えていきます。標準的な授業時間数は、高校+短期大学の時間数を大きく上回り、かつ専門科目は大学工学部で履修する専門科目の総時間数を上回ります。早期から創造性豊かな実践的技術者を育てる他に例を見ない教育課程が、高専制度の大きな特徴のひとつとなっています。

専攻科 高専卒業生や社会人等が入学する専攻科(2年間の課程)は、高等教育機関において工学の基礎と実践的技術を習得した方が、更に複合・融合された高度で専門的な技術・学問を学びます。本校専攻科生は、同年齢の大学生が個別の工学の基盤を学んでいる時期に、産学共同長期インターンシップを含む徹底した技術者教育により、技術者が実際に遭遇する複合的課題を解決する能力を実践的に培っていきます。

学 位 本科卒業生は準学士となります。専攻科修了生は大学評価・学位授与機構の審査に合格することにより学士の学位が授与されます。

- 少人数編成、きめ細かい教育指導
- 優れた教育スタッフ/教員の学位(博士・修士)取得者90%
- 高い就職率/求人倍率28倍、就職希望者の就職率ほぼ100%
- 多様な進路/学生の約4割が進学

5年卒業 専攻科入学、大学編入学

専攻科修了 大学院進学

※詳細はDATA FILEをご覧ください。

(出典 高知高専「学校要覧 2011」)

「高知高専学校要覧配布先」

配布先	
文科省高等教育局	1
国立高専機構	1
高専	62
大学	14
県内自治体・関係機関	11
マスコミ関係	5
OB教員	48
県内中学校	113

(出典 総務課資料)

「教育方針（中学生向け学校紹介パンフレット）」

▶ 機械工学科とは？

夢をカタチにする
工業技術を学ぶ。

パソコンでもデジカメでも車でも、またエネルギー機器や環境機器であっても、全て製品（モノ）を作る場所には必ず機械が活躍しています。機械工学科はただモノを作るだけでなく、機械の設計・試作・検封・製品化というトータルの流れをデザインする、いわゆるエンジニアリングデザインの基礎を身に付け、即戦力を目標します。更に、機械工学科では、機械だけでなく電子情報系や環境エネルギー系の専門分野も横断的に学ぶので、幅広い業種への就職が可能です。好不況にかかわらず高い求人倍率を誇っています。



教育の目的

機械の構造、材料、加工、力学及び制御に関する機械工学の知識と技術を教授し、機械システムの計画、設計、生産で必要とされる実践的な能力を育成する。



ロボコン

ロボコン活動も積極的にを行っています。平成23年度のロボコン四国大会では技術賞と特別賞を受賞しました。

▶ 電気情報工学科とは？

環境と調和した
モノづくりを学ぶ

急速に発展するネットワーク社会、2足歩行ロボットに代表されるコンピュータを中心に、環境にやさしい新エネルギー技術などの分野で、電気・電子・情報の知識は、欠かせないものになっています。電気情報工学科では、数学や物理などの基礎科目はもちろん、電気・電子・情報（エネルギー・エレクトロニクス・インフォメーションテクノロジー）など広い分野の勉強をし、産業界で新しい「モノ」を創造できる技術者を育てます。また、近年注目されている自然エネルギーについても勉強します。



教育の目的

電気、電子、情報及び通信に関する電気工学の知識と技術を教授し、エネルギー、エレクトロニクス、インフォメーション、コミュニケーションテクノロジーで必要とされる実践的な能力を育成する。



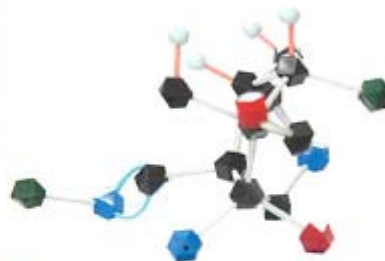
自然との共存

電気工学科では風力や太陽光などの自然環境に優しい新エネルギーのシステムに携われることで、その仕組みを理解します。

▶ 物質工学科とは？

可能性を秘めた
物質を創造する

“21世紀は化学の時代”と言われています。化学技術は、今や化学工業のみならず、あらゆる科学技術の基礎となっています。また、現在人類が直面している環境問題、エネルギー資源問題、食糧問題の解決にも、化学技術は重要な役割をになっています。物質工学科では、新しい機能や高い性能を持った物質の開発、エネルギーや食料問題を解決する技術、地球に優しく環境との調和を考えた技術、これらハイテク先端技術の世界に挑戦できる技術者を育てます。



教育の目的

化学、生物、化学工学、環境および情報に関する物質工学の知識と技術を教授し、工業薬品、材料化学、バイオテクノロジー、プロセス工学、及び環境化学に於ける開発・生産・製造・管理で必要とされる実践的な能力を育成する。

1~3年 化学・生物の分野についての基礎を学びます。

4・5年

材料化学コース

医薬品、ガラス、セラミックスなどの有用な材料を創造・開発・製造できる技術者を目標します。

生物・生産工学コース

バイオテクノロジーを生産規模にのせられる、生物に強い化学技術者を目標します。

（出典 高知高専「School Guide 2013」）

資料 1 - 2 - ② - 5

「中学生向け学校紹介資料配布先」

	部数	送り状	リーフレット	ポスター	パンフ	広報誌	専攻科 パンフ	懇談資料
県内中学校	153	○	○	○	○	○	○	○
県外中学校	133	○	○		○	○		
県内塾	195	○	○		○	○		
県外塾	280	○	○		○	○		
合 計	761							

(出典 学生課資料)

「専攻科の教育方針」

機械・電気工学専攻

教育方針

機械、電気の技術分野は高度化、専門化するとともに、両分野の技術の融合化も進んでいます。ロボティクスやメカトロニクスに代表されるこれら技術の融合化の例として、人間の頭脳と知覚、認識を持った知能ロボットの研究や、危険環境における作業ロボットの開発、生産ラインの自動化技術の開発などがあげられます。

本専攻では、高専本科の機械工学科及び電気情報工学科(電気工学科)のカリキュラムの上に立って、両分野に共通する関連科目を中心に機械工学、電気工学のより高度な専門的知識と技術分野を教授します。これにより“機械の知的な制御”をキーワードとした両分野の学際的素養を有する、創造性豊かで実践力のある技術者を育成します。

物質工学専攻

教育方針

現在の高度技術社会は、優れた特性を持つ物質や材料などの高付加価値製品の創製によって可能となりました。これらの新物質や機能性材料は主に化学的技術によって製造され、最近では微生物を利用したバイオ技術による有用物質の生産も実用化されています。また、環境対策やクリーンエネルギーの創出、資源リサイクルにも化学やバイオ技術の果たす役割が高くなっています。

本専攻では、物質工学科を卒業した学生に対して更に2年間、化学やバイオ技術ならびに環境技術に関する基礎及び専門科目を教授し、上記のような期待に応える高度な知識と技術を備えた創造的技術者を育成します。

建設工学専攻

教育方針

近年、建設工学の分野においては、自然環境と融合した地球規模の幅広い思考ができ、技術のより一層の複合化・多様化・高度化・国際化などに対応できる技術者の育成が望まれています。

本専攻では、高専本科の環境都市デザイン工学科(建設システム工学科)の授業科目を基礎にして、広範囲にわたる力学系科目を中心とし、環境・防災・情報を考慮した専門基礎及び応用科目を教授し、計画・設計・施工・管理を系統的かつ効率的に判断できる能力を持った創造力溢れる総合建設技術者や開発研究型の人材を育成します。

(出典 高知高専「平成 23 年度専攻科パンフレット」)

「学生募集要項」

入 学 案 内

1. 創 設

深く専門の学芸を教授し、技術者として必要な能力を養うため、昭和37年に高等専門学校制度が創設され、本校はこの制度により、昭和38年4月に設立された国立工業高等専門学校です。

2. 教育方針

学生自らすすんで実践することによって、学問的、技術的力量を身につけ、徳性を養い、将来、創造力のある風格の高い人間・技術者として国際社会を主体的に生きることを目指させる。

3. 学科，入学定員及び修業年限

本校には、機械工学科，電気情報工学科，物質工学科，環境都市デザイン工学科の4学科があり、各学科の入学定員は40名，修業年限は5年です。

4. アドミッション・ポリシー（抜粋）

高知高専本科は、「感性豊かで学習意欲のある人」の中で、

- ・技術者への夢を抱いている人
- ・情熱と好奇心を持って取り組んでいける人
- ・協調性があり自ら進んで実践できる人
- ・地域社会に貢献したいという志を持っている人
- ・世界を舞台に活躍したいというチャレンジ精神のある人

たちが集い、若いときから工学や技術に取り組み、心の豊かな人となってくれることを望みます。

中学校で、「数学」や「理科」が好きな人、「技術・家庭」が得意な人、クラブ活動や生徒会活動で活躍したりボランティア活動に積極的に参加したりした人などを歓迎します。

（出典 高知高専「学生募集要項」）

「専攻科学生募集要項」

入 学 案 内

1. 設 置

平成12年4月1日

2. 目 的

本校専攻科は、高等専門学校などの高等教育機関において、工学の基礎と実践的技術を修得した者に対して、更に2年間の高度で専門的な技術・学問を教授することによって、実践的かつ創造的な研究開発能力を持つ高度な技術者を育成することを目的とします。

3. 各専攻の教育方針

(1) 機械・電気工学専攻

機械、電気の技術分野は高度化、専門化するとともに、両分野の技術の融合化も進んでいます。ロボティクスやメカトロニクスに代表されるこれら技術の融合化の例として、人間の頭脳と知覚、認識を持った知能ロボットの研究や、危険環境における作業ロボットの開発、生産ラインの自動化技術の開発などがあげられます。

本専攻では、高専本科の機械工学科及び電気情報工学科（電気工学科）のカリキュラムの上に立って、両分野に共通する関連科目を中心に機械工学、電気工学のより高度な専門的知識と技術分野を教授します。これにより“機械の知能的な制御”をキーワードとした両分野の学際的素養を有する、創造性豊かで実践力のある技術者を育成します。

(2) 物質工学専攻

現在の高度技術社会は、優れた特性を持つ物質や材料などの高付加価値製品の創製によって可能となりました。これらの新物質や機能性材料は主に化学的技術によって製造され、最近では微生物を利用したバイオ技術による有用物質の生産も実用化されています。また、環境対策やクリーンエネルギーの創出、資源リサイクルにも化学やバイオ技術の果たす役割が高くなっています。

本専攻では、物質工学科を卒業した学生に対して更に2年間、化学やバイオ、環境技術に関する基礎及び専門科目を教授し、上記のような期待に応えうる高度な知識と技術を備えた創造的技術者を育成します。

(3) 建設工学専攻

近年、建設工学の分野においては、自然環境と融合した地球規模の幅広い思考ができ、技術のより一層の複合化・多様化・高度化・国際化などに対応できる技術者の育成が望まれています。

本専攻では、高専本科の環境都市デザイン工学科（建設システム工学科）の授業科目を基礎にして、広範囲にわたる力学系科目を中心とし、環境・防災・情報を考慮した専門基礎及び応用科目を教授し、計画・設計・施工・管理を系統的かつ効率的に判断できる能力を持った創造力溢れる総合建設技術者や開発研究型の人材を育成します。

(出典 高知高専「専攻科学生募集要項」)

(分析結果とその根拠理由)

本校の教育目的はウェブサイト上で公表している。また、目的を記載した学校要覧、中学生向け学校紹介パンフレットを関係機関、県内中学校等への配布を行っている。以上のことから本校の教育目的は、社会に広く公表されている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

本校の教育方針及び教育目的が記載されている「学生便覧」は、印刷物として配布されているだけでなく、全学生に配布されている携帯情報端末から容易に閲覧可能になっている。

(改善を要する点)

学校の構成員の教育方針、教育目的の周知状況を把握するための定期的な取組が必要である。

(3) 基準 1 の自己評価の概要

本校では、「学生自らすすんで実践することによって、学問的、技術的力量を身につけ、徳性を養い、将来、創造力のある風格の高い人間・技術者として国際社会を主体的に生きることを目指させる」という教育方針のもと、準学士課程の各学科の目的及び専攻科課程の各専攻の目的が学則により明確に定められている。これらは、学校教育法第 115 条に規定された、高等専門学校一般に求められる目的に則ったものとなっている。

本校の教育方針及び教育目的は、学生に対しては、毎年度当初に配付される「学生便覧」などの印刷物や各行事における講話などを通して周知している。また、「学生便覧」は全学生及び全教員に配布されている携帯情報端末上でいつでも容易に閲覧が可能となっている。教員に対しては、毎年度当初に全教員が出席する教員会で配付される印刷物及び校長の年度当初の挨拶などを通して周知が図られ、理解されている。

本校の教育方針及び教育目的はウェブサイトに掲載され、広く社会に公表されている。また本校の概要を一般社会に公表するためのパンフレットや中学生向け学校紹介パンフレットなどの印刷物は関係機関、県内外の中学及び学習塾に送付されると同時に、校内における公開講座、県内を中心とする中学校訪問、体験入学などで参加者に配布されている。